

まちづくりマップ

金剛の道 うちの里 近内

①もうこの鳥居

昔、旧南宇智村霊安寺に井上内親王をお祀りしてあったのを、村々に宮分けをして祀る際に、小和の人々はお霊様をかついで帰っていったのを、霊安寺の人が御神体を取り返そうと追ってきた。無事に逃げ帰ったところで、そこへ鳥居を建てた。「もう来んだらう」というので、それを「もうこの鳥居」と名づけたという。



②御霊神社

奈良時代の光仁天皇の皇后であった井上内親王の御霊を安め奉った御霊神社(霊安寺町)より1238年に宮分け。社殿は春日造、拝殿部分には奉納された立派な絵馬が飾られている。



③八幡社

御霊神社の裏参道の入り口に位置している。金剛山に向かって伸びる参道がとても美しい。

ご祭神 品陀和気命



④藤岡家住宅

藤岡家は江戸時代からの庄屋で、五條が生んだ内務官僚及び俳人であった藤岡長和(俳号 玉骨)の生家である。「NPO法人うちの館」が管理する登録有形文化財。



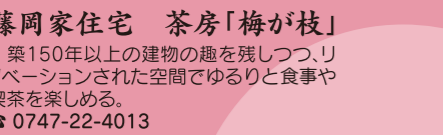
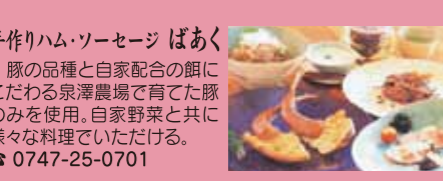
食

手作りハム・ソーセージばあく

豚の品種と自家配合の餌にこだわる泉澤農場で育てた豚のみを使用。自家野菜と共に様々な料理をいただける。
☎ 0747-25-0701

藤岡家住宅 茶房「梅が枝」
築150年以上の建物の趣を残しつつ、リノベーションされた空間でゆとりと食事や喫茶を楽しめる。
☎ 0747-22-4013

中村松月堂
明治43年創業。北海道産小豆を使用し、7~10日ほど寝かせた餡が入ったやきもちが名物。
☎ 0747-22-4032



至 金剛山(天ヶ滝新道、小和道)
至 葛城市 御所市
手作りハム・ソーセージばあく

261 東道西佐味中之線

① もうこの鳥居

ひきのやま 引ノ山古墳群
5世紀後半~6世紀後半に14基の小古墳が造られた。埋葬施設は木棺直葬と横穴式石室。副葬品は土器を中心に鉄刀など。第13号墳が小学校の敷地内に保存されている。

近内道標 文化3年建立
「左 こんがう山・右 五條かうや」

御霊神社 ②
八幡社 ③
尊々の森 ⑤ 徒歩4分
藤岡家住宅 ④
福徳寺 ⑥
並びの井戸 ⑦

大きな樹の根本にある道標
「右 金剛山・左 法起菩薩 くら/地福寺」

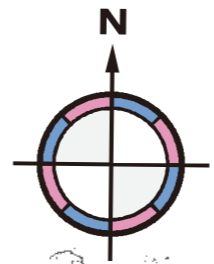
藤岡家住宅内 茶房「梅が枝」

つじの山古墳
5世紀末に造営された、一辺約54m、高さ約9mの大形方墳。墳丘は2段に築かれ、斜面に石を葺き、円筒埴輪、朝顔形埴輪と木製品を立て並べていた。墳丘東部に造り出し部を持ち、周囲に堀と堤を巡らせる。埋葬施設は、箱形石棺直葬の可能性がある。近内古墳群で最後の首長墓と考えられている。

5世紀中頃に築造された、一辺約25m、高さ約5mの方墳。墳丘中央部の堅穴式石室の内外から、甲冑、金銅製帯金具、鉄鎌、鉄製農具・鍛冶具など、多量の副葬品が出土した。とくに蒙古鉢形眉庇付冑(上の写真)は、形状が珍しく、最先端の彫金、鍍金などの技法で作られている。大陸・朝鮮半島色の濃い遺物が多いため、被葬者は、渡来人の金属器製作技術者を擁して五條を治めた有力者とみられる。

ちかうちかんすづか 近内罐子塚古墳
4世紀末頃に築造された五條最大の古墳。直径約85m、高さ約12m。2段の墳丘の斜面に石を葺き、円筒埴輪、朝顔形埴輪などを立て並べていた。埋葬施設は、粘土槨または箱形石棺直葬。向山丘陵の最高所に位置し、近内古墳群で最初の首長墓と考えられている。なお、罐子とは湯を沸かすのに用いる金属製の釜のことで、古墳が丸い釜を伏せた形に見えたため、この名がついたと思われる。

こじょうねこづか 五條猫塚古墳
5世紀中頃に築造された、一辺約25m、高さ約5mの方墳。墳丘中央部の堅穴式石室の内外から、甲冑、金銅製帯金具、鉄鎌、鉄製農具・鍛冶具など、多量の副葬品が出土した。とくに蒙古鉢形眉庇付冑(上の写真)は、形状が珍しく、最先端の彫金、鍍金などの技法で作られている。大陸・朝鮮半島色の濃い遺物が多いため、被葬者は、渡来人の金属器製作技術者を擁して五條を治めた有力者とみられる。



A 御霊神社の参道の大木



B 金剛山



C 大峰山系を望む



⑤尊々の森

昔はケヤキなどの大木が生い茂っていたので、地元では「尊々の森」と呼ばれていた。御霊神社の祭礼では、最初に立ち寄る御旅所となる。



⑥福徳寺

本堂は、文化5年(1808年)に藤岡長兵衛により再建された。本尊は地藏菩薩像で、藤岡長兵衛の木像もある。かつては年に1回その年に新しく来た人を紹介する「みづくり」という行事をここでやっていった。



⑦並びの井戸

弘法大師の指導により掘ったといういわれのある井戸。2つ並んでいることから「並びの井戸」と呼ばれている。昔は夏場には井戸水の冷たさと相まって、良い休憩場所であった。また、大干ばつ時にも枯れない湧水が出ていたといわれている。



⑧荒坂瓦窯(かまあと)

関屋川に面して営まれた半地下式の登窯14基のうちの1号窯(県史跡)。荒坂瓦窯群では、7世紀後半に須恵器、埴土ともに瓦が作られ、飛鳥の川原寺に運ばれた。天智・天武朝の官寺の創建瓦の生産は、都と五條の深いつながりを象徴している。右の写真は、藤岡家住宅所蔵の荒坂産とみられる平瓦。



⑨荒坂峠の万葉歌碑

舒明天皇が宇智の大野で遊獵をされた時に、中皇命(間人皇女説、斉明天皇説あり)が間人連老に奉らせた歌の反歌が刻まれている。「たまきはる」は、「うち」の枕詞。碑の文字は、武者小路実篤の書。
たまきはる 宇智の大野に
馬並めて
朝踏ますらむ その草深野
万葉集巻1-4



P 駐車場
トイレ
ビュースポット

0m 200m

至 五条駅 至 橋本市

至 五条C.I. ⑨ 荒坂峠の万葉歌碑